

(国語科)

「確かな読みの力を育成する国語教育をめざして」

—基礎・基本の定着—

大阪市立喜連小学校 国語部

1. 研究主題設定の理由

本校では「人間性豊かな子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、教育活動を進めている。これまで進めてきた研究を継続し、確かな学力の向上のために研究を進め、基礎的な力の育成を目指してきた。

しかし自分や人の思いについて考えていくとき、それをうまく表現する力が十分でないことが分かってきた。また、「国語のしんだん」においてはどの学年も内容を正しく読むことができなかつたり、正しく書き抜くことができていなかたりする傾向がみられた。

そこで昨年度より、国語科を研究教科として取り上げて、「確かな読みの力を育成する国語教育をめざして～基礎・基本の定着～」を研究主題として研究を進めることにした。

2. 研究の趣旨

研究の視点

- ・ 課題を明確にし、わかりやすい発問の工夫を行うこと。
- ・ 聞くだけではわかりにくいことを、視覚化によって見てわかる工夫をすること。
- ・ 読みを共有するための話し合いの場を工夫すること。

基礎・基本の力をつけるために

低学年・・・音読

中学年・・・語彙力の向上

高学年・・・話し合い活動

3. 研究の概要

基礎・基本の力をつけるために

低学年・・・音読（早口言葉 丸読み・竹の子読みなどの音読の形態の工夫）

中学年・・・語彙力の向上（国語辞典の使い方 「読むコツブック・つながりのことばカード」）

高学年・・・話し合い活動（話し合いのしかたカード 話し合いの順序ボード）

言語活動

読む意欲を高めるために、指導のねらい（つけたい力）と子どもの実態に応じた言語活動を取り入れていくこととした。

授業実践として

1年・・・「おとうとねずみチロ」 紹介カード

2年・・・「名前を見てちょうだい」 音読劇

3年・・・「はりねずみと金貨」 紹介カード

4年・・・「走れ」 感想文

5年・・・「大造じいさんとがん」 ポップ

6年・・・「風切るつばさ」 音読大会

として学習をすすめた。

ワークシートの精選

昨年度は、ともすれば、1 時間の学習内容がわかるようなワークシートになってしまい、子どもたちが書くことに学習の中心を移してしまいがちになってしまった。そこで、子どもたちが 1 番考えてほしいことを精選したワークシートになるようにした。

壁面掲示の活用

板書で活用した挿絵を中心に 1 時間の学習が分かるようにまとめて掲示する。その時には、物語の状況や主人公の気持ちの変化が表れるように掲示の仕方を工夫して子どもの読みの助けとなるようにした。

その他の工夫

ICT の活用

子どもの実態に応じて ICT の活用を行った。2 年生の学習では、前時の振り返りとして前時のまとめの音読を毎時間録画して次時の導入に活用した。

読書環境を整える

過去 10 数年に及ぶ朝の読書を続けることで子どもたちの読む姿勢を養うことができている。

各学年にカートを常置することで国語科の関連読書・並行読書に活用するだけでなく、他教科の教材を読みたいときに手にすることができるようにした。

図書館支援員を配置して図書館の環境整備やいつでも図書館で読書ができる環境などができた。

授業の実際

1 年 ○いろいろなおはなしをよもう「おとうとねずみチロ」

- ・これまでの取り組み・・・音読 気持ちを考えるために 書く力を高めるために

- ・「おとうとねずみチロ」

- 音読「チロに変身！」・・・役割読み 動作化

- 視覚化・・・壁面掲示 ペープサート きもちの色分け

- 大すきしょうかいカード・・・ハートマーク 並行読書

4 年 ○人物の気持ちを想像し、自分の感想を手紙に書いて表現しよう「走れ」

- ・視覚化・・・壁面掲示・ワークシートの心情曲線 表情を描く

- ・発問の工夫・・・発問のパターン化

- ・「読むコツブック」・・・ひとりで読むために

- ・読みを深め、自分の考えをもたせる・・・のぶよにかけてあげたい言葉「走れ」から「ごんぎつね」へ

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

研究の視点・学年の重点に沿って研究をすすめることによって読みが深まってきた。

子どもの実態に応じた言語活動を設定することで、より目的意識をもって学習を進めていくことができた。

(2) 今後の課題

よりよいワークシートとノート指導の研究を進めていく。

わかりやすい発問の工夫を進めるためにさらに教材研究をすすめていく。